

(様式— 1) 新潟国道事務所 技術研究発表会 (令和5年度)

1	表題 (課題) 名	遠隔臨場による店社安全パトロール	
2	工事 (業務) 名	R3・4新潟国道管内橋梁補修その2工事	
3	受注者名	北本建設株式会社	
4	工 期	令和 4 年 3 月 23 日 ~ 令和 5 年 6 月 30 日	
5	担当技術者 (立場) 名	現場代理人	(いしもと げん) 石本 元
6	担当主任監督 (調査) 員	新潟維持出張所長	
7	課題区分名	⑥安全管理 (_____)	
8	工事 (業務) 概要	新潟バイパスに架かる紫竹跨線橋で橋梁補修を施工した。	
9	【施工における 課題・問題点 等】		
	・店社安全パトロールの実施日は、本工事の既設橋梁塗装の含有試験結果により、PCBを含んだ有害物質が検出された、塗装剥離方法及び作業員及び第三者の安全確保等について、対策を講じる期間内 (準備工) で休工となったため、店社安全パトロールの方法を工夫したいと考えた。		
10	【実 施 内 容】		
	・通常店社安全パトロールの安全書類及び現場の安全点検等は、現場臨場を行う事が通常であるが、店社安全パトロール時の現場状況は準備工で休工となったこともあり、店社安全パトロールの実施前に現場と会社で協議し、ウェアブルカメラを使用した遠隔臨場で行う事に決定した。		
11	【実 施 結 果】		
	・休工時の店社安全パトロールは、通常時と同様に遠隔臨場による安全書類及び現場の安全点検を行う事が出来た。 ・実施後の評価は、 良点としては、時間の省力化。(店社パトロール班の現場までの移動時間がない) 課題としては、実施時期が限定的である。(休工時に限るのではないか) 現場状況を十分に把握していることが必要である。 (幾度かの店社安全パトロール実施後に行うことが必要) 展開としては、発注者と実施されている、段階確認及び材料確認と同様に社内検査等に適用出来るのではないか。		

(様式—2)

【実施内容等】

ウェアブルカメラ遠隔臨場による店社安全パトロール

